



【キャリア教育】

校長 佐伯 英徳

キャリア教育については、現行の中学校学習指導要領の総則において、「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と示されています。つまり、「勤労観・職業観」のみを育てる教育ではなく、キャリア教育では「人間関係形成能力」や「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」等の能力や、自分をかけがえのない存在としてとらえ、自己を見つめ、将来にわたる自分の生き方について学ぼうとする態度を養うために、教育課程全体を通じた取組が重要となります。さらに、総則では、「その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと」と示されています。このことから、キャリア教育の中に含まれている進路指導では、小学校との連携を図りながら各学年の特性を踏まえて、年間指導計画・全体計画に基づく一貫した指導の下に、外部人材を効果的に活用し、適切な進路を選択できる力の育成を図っていく必要があります。

そこで本校では、第1学年で、『自分を見つめ自分を知る（自己理解・自己管理能力）とともに、実際に地域の職場を回りインタビューを通して仕事について学ぶ（人間関係形成・社会形成能力）』、第2学年で、『職場体験学習を通して「職業」と「生き方」について考え、望ましい職業観や勤労観について学んだ上で（キャリアプランニング能力）、中学校卒業後の上級学校について学習する』、第3学年で、『第



1・2学年の学習を踏まえ、自己の進路選択にあたり、自ら進路希望先の説明会・学校見学等へ積極的に参加し適切な選択ができる能力（課題対応能力）を育成するとともに、進路選択に関する適時適切な情報提供及び年2回の丁寧な進路相談により、生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す』という進路指導を行っています。また、過日、コミュニティスクール四中ゾーンでは、狛江第五小学校と本校の副校長と主幹教諭が一堂に会して、小学校と中学校の学びをつなげるための「キャリアパスポート」（児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等）の引き継ぎや系統的な活用方法等について協議したところです。中学校3年生にとっては、いよいよ進路希望を実現する大切な時期が来ました。自己の夢や目標の実現に向けた進路選択ができるよう、学校として一人ひとりの子どもたちを全力でサポートしていきたいと思っております。

「社会を明るくする運動」啓発標語

狛江市では7月の「社会を明るくする運動」強調月間に合わせ、中学生による啓発標語を募集しました。市内の中学校より456作品の応募があり、四中からは3名の作品が入賞し、2学期始業式後に表彰されました。

寄り添えば 心と心が つながるね	2年 久保田 蘭 優秀
あいさつが 犯罪防ぐ 第一歩	2年 野嶋 乃都 入選
考えて 言っているかな? その言葉	2年 佐藤 春馬 入選

主権者教育講演会

9月12日(火)昨年度に引き続き特定非営利活動法人「DAKKO」から講師の方々をお招きして、リモートによる講演とワークショップを通して主権者教育についての理解を深める取組を行いました。今回は、9月14日に行われた生徒会役員選挙を前に、「こんな狛江四中にしたい」というワークショップのテーマに基づき、全学年全学級が班単位で意見を出し合いクラス発表を経て各クラスの代表が会議室からリモート配信で発表しました。「文化祭や縦割り活動、体験学習の機会を増やしてほしい」「ベルマークを集め部活動の道具等を整備してほしい」、「登下校の際に裏門を使わせてほしい」等の具体的な提案から、「明るい雰囲気や発言しやすい雰囲気を作っていく」「一人ひとりが挑戦しようとする気持ちを大切にする」等の学校づくりに関する提案に対して校長がフィードバックするという新たな取組を行いました。「物事を多面的に考察し公正に判断すること」や「課題解決のために協働的に追究し合意形成を図ること」等の主権者として必要な資質を培うきっかけになってくれたらと思います。



生徒会役員選挙

第45回生徒会選挙が9月14日と19日に行われ、これからの四中の代表となり活躍してくれる7名の生徒会役員が決まりました。本校の伝統と44期生徒会の実績を引き継ぎ、45期生徒会として着実に前進してくれることを期待しています。

会長	2年 徳光 咲季
2年役員	久田 悠聖、三好 伶奈、菅原 優希
1年役員	酒井 翔太、築地 凜、柳瀬 舞衣

※ HP用には月予定を掲載していません。